

農家有志が「冬の農業」に挑戦 ～雪室で野菜をおいしく～

農閑期の収入確保などを図るために町内の農家有志でつくる「冬の農業研究会」(澤田なよ会長)が、初めての取り組みとして雪室での野菜や果物の貯蔵を試験的に実施しました。約1ヶ月半ほど雪の中で貯蔵して、道の駅つるたで販売される予定となっています。

▶雪室で保存する意味は何？

雪で作られた雪室は天然の冷蔵庫と呼ばれており、リンゴなどは温度や湿度が一定の雪室で保存することで雑味が少なくなり甘さが引き立つことから、同会では雪室貯蔵で付加価値を高め販売することで農閑期の収入確保を目指しています。

▶「冬の農業」発展へ一歩前進

作業は1月21日(木)に行われ、会員8人が生産したキャベツやジャガイモ、ニンジン、リンゴなど、9種類の野菜と果物など合わせて約300kgを農村環境改善センター豊明館の敷地内に持ち込み、糖度を計測した上で野菜などを箱に入れて積み上げました。箱を木の板やブルーシートで覆い、スコップで雪をかけて雪室を作りました。

同会の瀬戸ひとみ副会長は「冬の農業の第一歩として雪室を始めました。この取り組みが他の農家の人たちにも広まり、鶴田町の農産物のおいしさをアピールできればなと思います」と話していました。同会は雪室だけではなく、将来的にホウレン草や小松菜といった冬野菜が栽培できる体制づくりも目指しているそうです。

雪室貯蔵された野菜や果物は3月上旬に掘り出され、鮮度や糖度などが調べられたあと、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」で3月7日(日)に販売する予定です。



△野菜や果物の入った箱を積み上げる会員たち



△雪室にスコップで雪をかける会員たち

道路インフラの実態が見える化します！ 『青森の道路メンテナンス概要』

道路の老朽化の現状は？
どのような取り組みをしているのか？

青森県道路メンテナンス会議(※)では、県民・道路利用者の皆さまに道路インフラの現状および老朽化対策についてご理解を頂くため、「青森の道路メンテナンス概要」として点検の実施状況や結果などをとりまとめましたのでお知らせします。

※青森県道路メンテナンス会議は、道路インフラの予防保全・老朽化対策の体制強化を図るため、県内の道路管理者が連携し、2014年度に設立しています。

○とりまとめの内容(県内の高速道路、国道、県道、市町村道)

- 📍 2019年度(単年度)における点検結果
- 📍 2019年度末時点における判定区分の割合
- 📍 2019年度点検実施施設における判定区分の遷移状況

○とりまとめのポイント

- 📍 点検実施率は、橋梁19%(1311橋)、トンネル13%(7箇所)
- 📍 橋梁の判定区分の割合は、Ⅲ:10%(133橋)、Ⅳ:0%(0箇所)
【判定区分Ⅲ・Ⅳ:次回点検までに措置を講ずべき施設】

詳しくは、 青森 道路メンテ 検索

【道路メンテナンス年報】
青森の道路メンテナンス概要



2020年11月
青森県道路メンテナンス会議

■問い合わせ先

青森県道路メンテナンス事務局

TEL: 017-734-4575